

県外派遣報告書



一般社団法人
栃木県バスケットボール協会

様式2

提出日 令和 7年 12月 26日

担当試合

試合日	令和7年12月23日(火)
回戦 カード 点数	男子 1回戦 17:20開始 県立高松商業(香川県)○94-90●菟面学園(大阪府)
会場	東京体育館 Bコート
審判員名	CC:山崎雅洋(栃木) U1:前田周二(愛媛) U2:小柳佳朗(東京)
審判員主任名	山口堯彰 氏
試合振り返り	<p>ゲームとしては、サイズは小さいが機動力のある日本人チームvs留学生擁する大型チームの対戦、最後までもつれる見ごたえのある試合であった。</p> <p>プレスからブリッツになった時の軸足の入れ替わりについて両ベンチから指摘された。3Qに両方のトラベリングを取り上げたが、ゲームの入り・事が起きたところから取り上げなければならない事象であった。</p> <p>留学生に対する守り方で、後方からのコンタクトを整理すべきであった。インサイドにボールがつながることでプレーできる、シュートに行けると判断したが、インテンシティが上がり、粗暴なプレーに発展しそうになった。イリーガルスクリーンに引っかかったと見せるフロップが1Q、2Qに同チームで1回ずつあった。フェイクを入れるべきであったがクルーで共有できなかった。</p>

担当試合

試合日	令和7年12月25日(木)
回戦 カード 点数	男子 2回戦 14:00開始 開志国際(新潟県)○104-67●東海大諏訪(長野県)
会場	東京体育館 Bコート
審判員名	CC:加川真(宮城) U1:山崎雅洋(栃木) U2:野口祥寛(山口)
審判員主任名	青木茉奈美 氏
試合振り返り	<p>PGCにて、加川氏からリードのローテーションのタイミングについて共通理解をいただいた。センターサイドのローポストにボールが入り、バックダウンが始まるタイミングではローテーションを完成させたいとのこと、数回そのケースでローテーションを行い、センターからは見づらいシュートファウルを取り上げることができた。自分としては明らかなDFコンタクトと思って取り上げたケースであったが、本人、ベンチの反応は違ったケースが同じ選手に対して前半に2回あった(うち1回はU2もコール)。CC、青木氏からも指摘があった。今一度映像から学びたい。</p> <p>DFファウルを取り上げたときに、バットニングによりそのDFプレイヤーの目の上が切れかなりの出血があった。とっさにレポートの前にベンチに伝え招き入れたが、CCから「レポートが先」と指摘された。もっともである。</p>

全体の感想 提言 参加者から学んだこと栃木県内審判員へ伝達したいこと

この歳になって全国大会を2試合割り当ていただいたこと、感謝したい。

改めてより多くのゲームやレフリーを見て学ぶ必要を感じた。こちらの思い(感覚)と選手やベンチの感覚の違いは、教科書やルールブックに載っているものではなく、「現代バスケ」の進化の波を常に感じ取り、アップデートしなければならないし、それを辞めたらコートに立つべきでないと感じる(この感覚は、今更ながらここ3～4年で特に感じている)。

県内の審判員においては、栃木県という多くの上位大会が実施され、多くの上級レフリーの活動を目にする機会が多いこの恵まれた環境であることを(言い方は悪いが)うまく利用し、情性ではなく、周りの人が行くからではなく、自ら会場に足を運び、進んで研鑽に励むことを切に願う。私自身も残り数年、選手ファーストの姿勢で臨んでいく所存である。